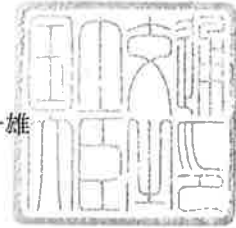


認定書

国住指第48号
平成 17年 5月 18日

日鐵建材工業株式会社
代表取締役社長 小山 巖 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第七号並びに同法施行令第107条第一号及び第二号(床:各1時間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP060FL-0031
 2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
鉄筋コンクリート・デッキプレート造床(デッキ合成スラブ・連続支持)
 3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り
- (注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

鉄筋コンクリート・デッキプレート造床 (デッキ合成スラブ・連続支持)

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
床 厚	60 以上
支 持	連続支持

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①デッキプレート	<ul style="list-style-type: none">・規 格 JIS G 3352 (デッキプレート)・厚 さ 1.0 ~ 1.6・山高さ $120_{\pm 1.5}$・働き幅 (1), (2)のうち、いずれか一仕様とする。但し、(2)は主として幅調整用として用いる。 (1) $600_{+8, -2}$ (2) $300_{+8, -2}$・形 状 (1) ~ (3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 2山品 (2) 1山品 A (3) 1山品 B (別添-6 参照)
②コンクリート	<ul style="list-style-type: none">・種 類 普通コンクリート・設計基準強度 18、21、24 N/mm²・厚 さ デッキプレート山上から 60 以上

(別添-1)

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

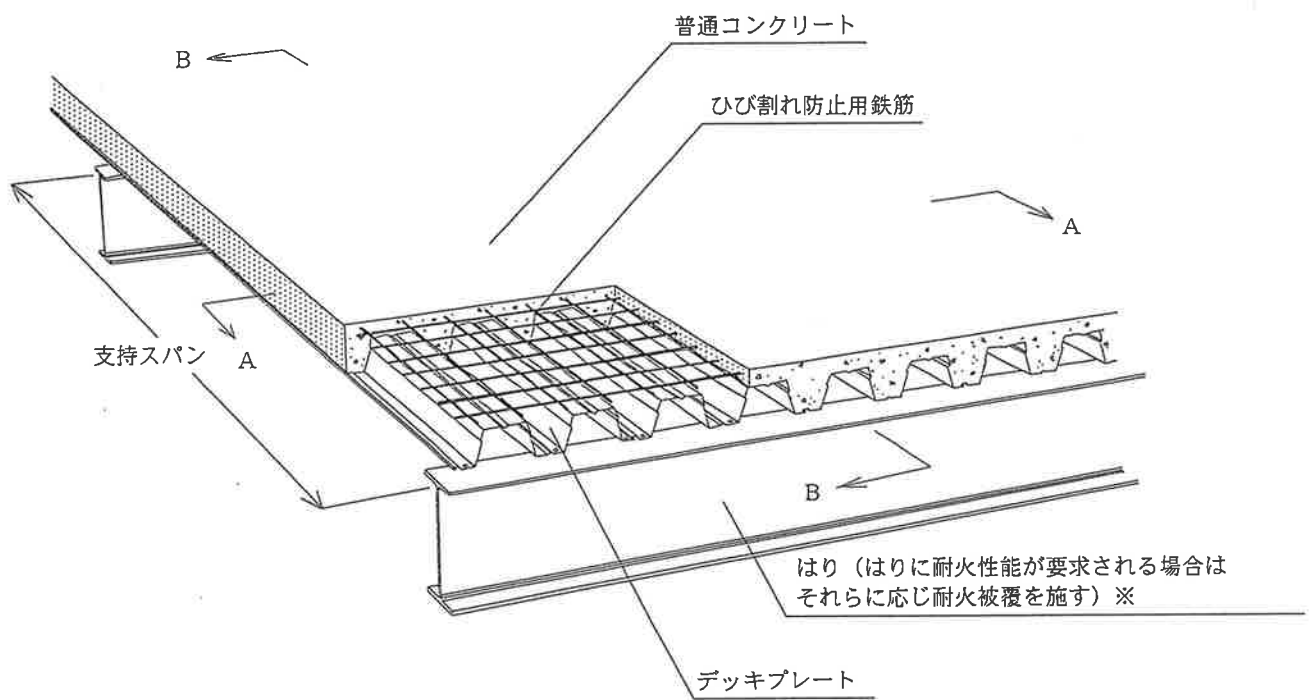
項 目	申 請 構 造
①ひび割れ防止用鉄筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3551 (溶接金網及び鉄筋格子) ・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) WFP (ロ) WFC (ハ) WFR (ニ) WFI ・断面寸法 φ6 以上 ・間 隔 150 以下×150 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 30 以上 <p>(2) 鉄筋 (異形鉄筋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> 1) JIS G 3112 (鉄筋コンクリート用棒鋼) <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 (イ)、(ロ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SD295A (ロ) SD295B 2) JIS G 3117 (鉄筋コンクリート用再生棒鋼) <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 SDR295 ・断面寸法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 30 以上
②スペーサー	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 4 以上 ・間 隔 1000 以下 <p>(2) セメントモルタルブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 25 以上×20 以上×20 以上 ・間 隔 1000 以下

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
③はりとはりとの床板の接合方法	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1) 焼抜き栓溶接 ・間 隔 300 以下 (2) 打込みびょう (平成 12 年建設省告示第 1446 号) ・寸 法 径 4.5 以上×ℓ 23.5 以上 (3) 頭付きスタッド ・規 格 JIS B 1198 (頭付きスタッド) ・寸 法 径 13 以上×ℓ 150 以上 (4) すみ肉溶接 (5) プラグ溶接

4. 構造説明図

[1] 透視図

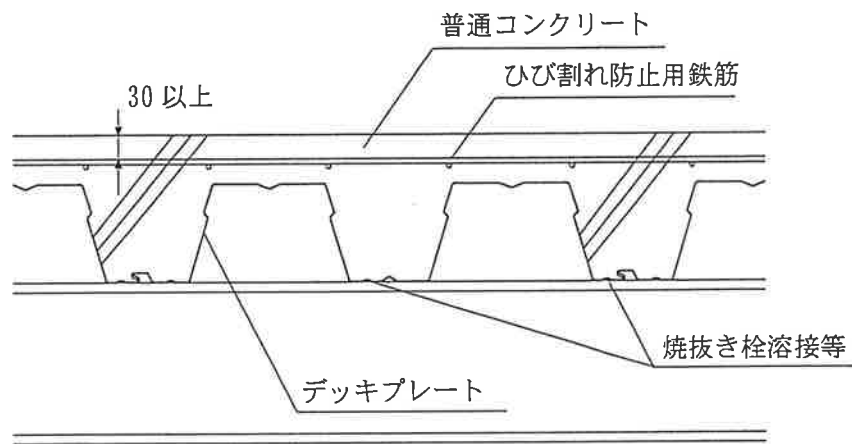


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

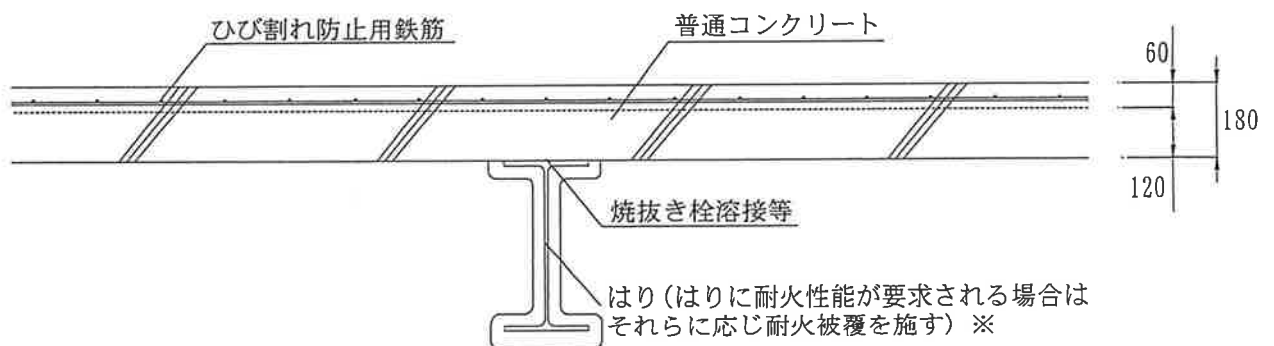
[2] A-A断面図

(寸法単位: mm)



[3] B-B断面図

(寸法単位: mm)

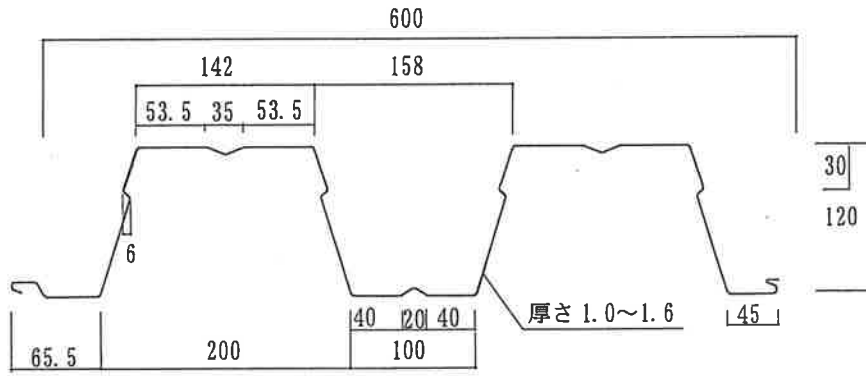


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

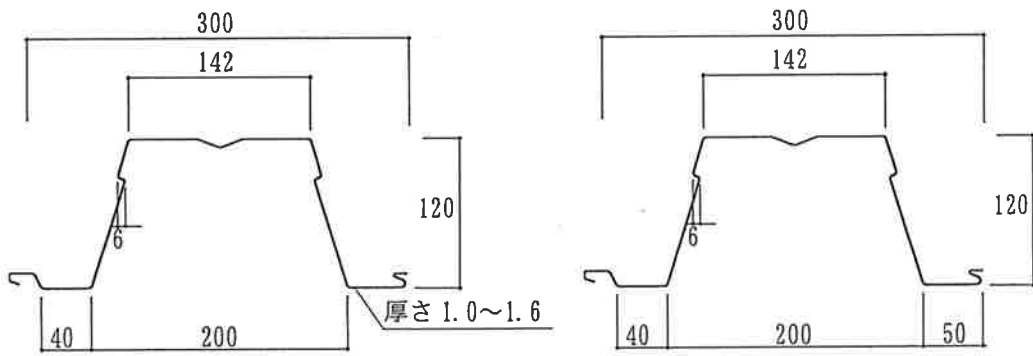
※: 本評価内容に含まない

[4] デッキプレートの形状・寸法

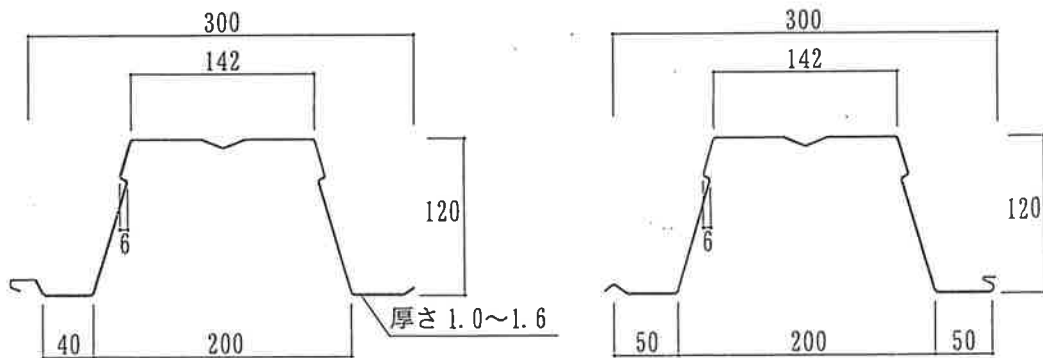
(寸法単位：mm)



2山品



1山品A



1山品B

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(別添-6)

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートをはりに溶接等で仮止めする。

2) 床スラブとはりとの接合

床スラブと鉄骨はりとは、焼抜き栓溶接、打込みびょう、頭付きスタッド、すみ肉溶接またはプラグ溶接で結合する。

デッキプレートとはりとは、焼抜き栓溶接、打込みびょう、すみ肉溶接、プラグ溶接またはアークスポット溶接で接合するか、頭付きスタッドを用いる場合は頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接あるいはアークスポット溶接等で接合する。接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

3) ひび割れ防止

コンクリートのひび割れ拡大防止のためスラブ上面より約 3cm の位置に溶接金網または異形鉄筋を設置する。

4) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

5) 仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

6) 養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。